



S-mile 通信

令和 8 年 8 月 15 日発行 第 102 号

発行／理事長室 浜松市中央区大山町 2958 番地の 1

人生で変えることが
できるのは
自分の未来だけ



野口英世

フォローアップ研修

7 月 29 日（水）R8 年度一回目のフォローアップ研修を開催し、介護・保育から 6 名の職員が参加されました。

午前には理事長による講話を中心に、クレドの唱和やアメーバ経営の再認識を行い、改めて組織理念と日々の業務のつながりを見つめ直す時間となりました。午後はアンガーマネジメントや精神的ケアをテーマに、自分自身の感情や働き方を振り返るワークを実施しました。動画視聴を交えながら、感情コントロールのポイントや仕事への向き合い方を学び、安心して業務に取り組むための理解を深める機会となりました。最後の個別ワークでは、参加者一人ひとりが今後の目標を掲げ共有しました。学びを明日からの実践に繋げる前向きな研修となりました。



理事長より～ 太平洋戦争の終結から 80 年以上が経ちました。時代の移り変わりとともに、物事に対する価値観は大きく変化しましたが、災害発生時において見られる秩序のある行動や助け合いの姿勢など、日本人が長く大切にしてきた精神文化は、今も私たちの中に根付いていると思われます。

人間は他の生き物にはない“こころ”を持って生まれますが、大事なことは年を重ねても“こころ”の美しさを保つことです。職員の皆さんには、相手に対する思いやりや優しさを忘れず、美しい“こころ”を大切にしながら日々のお仕事に向き合っていただければ嬉しいです。

初任者研修が修了しました

4 月からスタートした介護職員初任者研修は、7 月 31 日に終了しました。今回参加された 5 名の皆様は、欠席や早退もなく最後まで意欲的に受講されました。最終日の修了試験では全員が無事に合格し法人から修了書が手渡されました。

受講生の皆さんは、15 日間の研修を通し様々な課題に触れることで、改めて介護分野の幅広さを実感されたことと思います。また、知識を覚えるだけでなく、考えることの多さを体感できた研修でもあったのではないのでしょうか。

季節が春から夏へ移り研修の後半は暑い日が続きましたが、皆さん最後まで集中して取り組まれました。今後の皆様のご活躍を心より期待しております。

講師の皆様にはお忙しい中ご協力いただき、誠にありがとうございました。



福祉送迎車両安全運転講習会

7 月 22 日（水）浜松市勤労福祉センターにて、社会福祉協議会後援の「福祉送迎車両安全運転講習会」が開催され、慶成会から職員 5 名が参加しました。会場全体では近隣の高齢者施設で送迎を担当する職員が 30 名程集まり、主催者である浜松ウェルフェアサービスより座学を中心とした講義が行われました。

内容は、リフト車における車椅子シートベルトの正しい装着と可動部の故障原因について、また事故映像を用いた事例分析と事故による自動車保険の影響など、初めて聞く内容も多く非常に有意義な研修となりました。

車いすの固定を強めるポイント①



●車いすの停車位置（左右幅）



浜松ウェルフェアサービスでは、地域の高齢者施設へ出向き、実車を使いながら安全運転や車両の取り扱いについて講習を行う活動を続けています。

慶成会でも年内に、リフト車の使用方法や注意点を再確認する講習会を企画予定です。今後も職員一同、事故を未然に防ぐため、福祉車両の安全な取り扱いについて学びを深めて参りましょう。

夏休みチャレンジボランティア

浜松市社会福祉協議会では、施設との関りの中で福祉への理解を深めてもらうことを目的に、中学生から大学生を対象とした夏休みチャレンジボランティアの受け入れを行っています。

この度、西地区社会福祉協議会から東山苑デイサービスときさらぎデイサービスへ学生ボランティアの受け入れ依頼がありました。今年は、湖東中学と湖東高校から合わせて7名の学生が参加され、皆さん2～3日間の体験活動を行っています。多くの高齢者と言葉を交わし、一緒に体操や機能訓練を楽しんでいます。

参加後は社会福祉協議会からボランティア活動証明書が交付されますが、今回の体験を通して介護の仕事の魅力に気づいてもらえたら嬉しいです。

この活動は8月後半まで続きます。多くの学生さんが見えますので、職員皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



自立支援ケアエキスパート養成研修

慶成会の柱として取り組む科学的自立支援介護ですが、更に深い知識と専門性を学ぶ研修として5月から年度末まで6回にわたり「自立支援ケアエキスパート養成研修」が開催されています。

科学的自立支援介護の導入時に指導をいただいた株式会社日本経営の斎藤様を講師に、各部署の管理者やリーダー、また専門職を合わせ約30名の職員が参加しています。

実践の振り返りと症例の検討を中心に講義が行われ、都度、理解度を確認するテストを実施しています。



全課程を終了後はケアマイスターのエキスパートとして、更に科学的自立支援介護について豊富な知識と幅広い見識を持ちながら取り組みを進めていけると思います。

今後も、科学的自立支援介護の成功事例が増えていくことを楽しみにしています。



☆コラム☆ ～その1

ある飲食店で顧客満足調査を行いました。お店を出てきたお客様に再度利用したいか尋ね、リピートしないと答えた方へ「その理由」を聞くという調査でした。料理がおいしくない、接客が悪い、サービスが良くないといった回答が多いと思いきや、意外なことに一番多かったのは「特に理由はない」との回答だったそうです。

遠方に出かけ行きずりのお店で食事をしたのですが、一年ぶりにたまたま来店したところ、こちらの好みを覚えてくれていました。いつぞや来店するか分からない一客客のことを覚えてくれていたオーナーの気遣いに感激し、その後近くを訪れる際は自然とそのお店を利用しています。

また、あるメーカーの家具を保有してきましたが、一部の部品が劣化したため使用できなくなりました。家具には愛着もあり、部品さえ交換すれば使用できそうなので近くの大型家電量販店に問い合わせをしました。しかし、既に生産中止された部品は取り扱っていないとの返事でした。

どうしても諦めきれず、近所から離れた場所にある客足の少なそうな個人電器店へ問い合わせをしてみました。応対してくれた店主の返事は、「現在手元に部品はないが、もしかしたら仲間の店に在庫があるかもしれない」とのこと。その後時間をかけて探してくれたおかげで、たまたま一つだけ残っていた部品を取り寄せてくれました。

対応者の人件費を考えたら決して儲かる話ではないのですが、困っているお客様の希望をできる限り叶えようとする姿勢に感動を覚えます。

サービスは悪くない普通のお店は沢山ありますが、その中で敢えて選ばれるポイントは何か？

顧客がお店や企業を選択するきっかけは、こちらの期待値を超えた時の感動なのかもしれません。すぐに成果を求めず、手間がかかっても相手の役に立ちたい、喜んでもらいたいと思う強い気持ちがあるからこそ実践できるのだと思います。

企業の理念や想いに対する姿勢が、そこで働く人の姿勢に繋がり、やがてはお客様の心に伝わっていくのではないのでしょうか。

